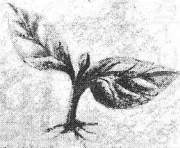
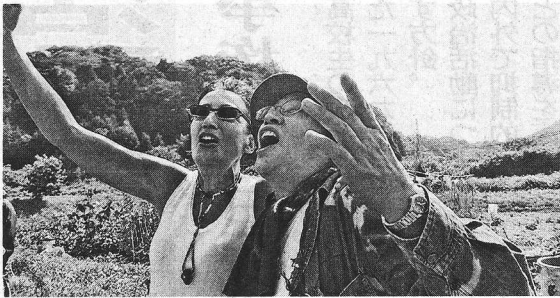


# 東北復興日記



144

二〇一〇年後半、社会貢献活動をスタートさせようとしていた時に、真っ先に浮かんだ言葉が「シェア」でした。この世界をより良くしようとする努力をしているNPOやそのサポーターの情熱を、私どものお客さまや社員たちとシェア(共有)することをベースに一年一月、FIATの社会貢献活動「Share with



FCAジャパン株式会社  
マーケティング本部長

ティツィアナ・アランプレセさん



## シェアする喜び実感

th FIAT(※)がスタートしました。

その直後、あの東日本大震災が発生。すると「シェアする」は日常会話に頻繁に登場する言葉となりました。現在、私どもがコラボレーションしている七団体のうち、JKSKさんとは「被災地と首都圏等の女性たちの連携により復興を成し遂げよう」という呼びかけに、企業の経営陣の一人としてだけでなく、一人の女性として貢献できるプロジェクトだと確信し、今日までさまざまな取り組みを続けています。

すべてを失った人たちが連

携し、雇用や仕事を生み出し、といこうとスタートした取り組みは小さな行動が大きな達成につながる愛のシェアストーリーです。

先日は「ふくしまオーガニックコットンバスツアー」という取り組みに、高校生の娘とその友人たちと参加してきました。十六歳の彼女たちにとって、被災地の人たちと一緒に畑作業を行い、自然の営みを学び、「シェアする」との持つエネルギーを実感できたことは、素晴らしい体験だったと思います。

福島県広野町の皆さんの温かい歓迎と笑顔に心からお礼

を申し上げます。必ず、また訪問します。この地球が必要としている太陽の恵み、清らかなエネルギーに感謝をささげながら、イタリアのカンツォーネ「オー・ソレ・ミオ」をまた一緒に歌いましょう。写真。

※ FIATは「Share with FIAT」のスローガンのもと、環境、教育、医療、貧困、障がい者支援などを扱う世界中のNPOをサポート。販売収益の一部を寄付するとともに、広く一般からの支援者拡大も図っています。

この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結核プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。